

第88回 獣医学セミナー

牛の人工授精を再考する

谷口 雅康 先生
(獣医繁殖学)

2023年 1月25日(水) 16:00-17:00

iCOVER1階 101

牛の精子凍結保存とその凍結精液を用いた人工授精法は世界中で広く一般的に活用されている。しかし、1回の人工授精に対する妊娠率は年々低下傾向である。生産性の向上に主眼を置いた育種改良による繁殖障害の増加や効率化を図るための規模拡大による管理面の要因など、雌側または農家側の要因に対する研究は幅広く行われている。一方で、種雄牛の造成も生産性が最も重要な要因である。凍結精液は主に融解後の運動性において一定基準を満たせば市場に流通する。そのため、種雄牛ごとに受胎率に差はみられるものの、農家は生産性及び市場性を重視して精液を選定する。さらに、凍結精液の製造は限られた機関でのみ行われていることから、雌側での研究に比べ、雄(精子)側での研究報告は圧倒的に少ない。我々の研究室では、このような背景を基に牛凍結精液の性状を様々な手法で解析し、雄側からの受胎率改善を目指した研究を行っている。本セミナーではその一端をご紹介したい。

★ 教員・学生の積極的な参加をお願いします！ ★
連絡先：三宅(5913)、伊賀瀬(5897)

